

# ゆりかご 園だより



4期(1~3月)のねらい  
表現活動を通して心を育てよう  
卒園・進級を期待しよう 2020・2・1

先月、2階クラスの子どもたちは、劇団風の子による『山を越え川を越え』という劇を見ました。前半は、身近な素材を使ってあそぶ楽しさが伝わる内容でした。

3歳児のSちゃんは、持ち手付のビニール袋の輪の部分に細長く棒状

にした新聞紙を通すのを見て、「洗濯物になた!」と、大きなビニール袋が空気でふくらんだ中に丸めた新聞紙を入れると、「あ、ゴミ箱になた!」と歓声を上げていました。

後半、ストーリー性のあるお話が進んでいく中で、背景となた、徘徊立がひっくり返されたとたん、2歳児のRんの「あ、暗くなたね」とつぶやく声が聞こえました。部屋が暗くなたわけではありません。小道具の変化で感じることができたのです。

目にしたものをそのまま認識し、ことばを発するのは理解できますが、実際には無いものを見たてたりとらえたりする力や想像をふくらませる感覚はどのように育つのか...、子どもの発達はおもしろいなあと、つくづく思います。

また、演者が客席の後方に向か、てセリフを言う場面では、子どもたちが一斉に後をふり返っていました。「なんだ、何もなないじゃん」ということばを発することもなく再び舞台の方に目を向け見続けていました。子どもたちはまなざしに毎文感+のだけなあと、思うと共に、虚構の世界に入るこめるのだけなあと感じました。

さて、ゆりかごでは日々の保育の中で展開し積み上げてきた表現活動を発表し、交流しあう場として、3期の12月に“お楽しみ会”を行いました。父母を招いての大人に見せることを目的とした“発表会”ではありません。その後10年ほど経てからは、これまで一緒に過ごしてきた年長児のそら組さんに「卒園おめでとう」「今までありがとう」の気持ちを込めた“お別れ会”に目的を変え、時期を4期の3月に変更し、現在に至っています。

このとくみを通して、虚構の世界を友だちと楽しんだり、表現する楽しさを味わいながら、友だちとのかかわりを豊かにしてほしいと思います。